火を育てる体験

＜プログラムの概要＞
刃物を使った薪割りや薪の加工、マッチを使った火付け、小さな種火から大きな火に育てる過程を体験します。

＜ねらい＞
火をおこすことは、「灯り、料理、暖を取る」の３つの要素が得られるとともに、先人たちの知恵が詰まった技術です。
生存技術の基本である火起こしを学び、生きる力を身につけることが目的です。

場所	野外炊飯場、第二キャンプ場。 雨天時：体育館軒下
時間	2 時間～3 時間
準備物	**【自然の家からの貸出備品】** 薪（500 円/束）※10 名に 1 束程度、 ナタ、新聞紙、革手袋、 灰缶、十能、火ばさみ、金バケツ、焚き火台 **【持ち物】** マッチ（できれば 1 班 10 名に 1 箱分）、軍手、水筒、救急用品
服装	帽子、運動靴、動きやすい服装 （長袖、長ズボン：ナイロン製は避ける）

準　備

＜時間＞

実施の 10 分前　**【1.所員との打ち合わせ・備品のうけとり】**
◆事務所、もしくは会場にて、所員と打合せを行う。班編成をしておく。

実施の流れ

＜時間＞

0:00　**【2.集合・導入・注意事項の説明】**
◆会場に集合し、始めのあいさつや導入のお話などを行う。
〈質問〉「火は何のために必要？」
◆テーマを明確にし、「失敗すること」を前提に試行錯誤しながらやってみることを伝える。
◆刃物や火を扱うため、それぞれが安全に活動できるよう、お互いに注意する。

0:20　**【3.内容説明・焚き火準備】**
◆内容説明
・薪割り台を使用し、ナタで薪を割る。
・ナイフで薪を削り火口を作る。　　→実際にやって見せながら進める。
・燃えやすそうなものを拾う
◆焚き火準備
〈質問〉「火が燃えるための条件は？」→空気（酸素）がある、燃えるものがある、熱がある
・焚き火台に薪を組む。
・試行錯誤を重ねた成功体験に導くために、やり方を全ては教えない。

1:00　**【4.火をつける】**
◆マッチで火をつける
・マッチの使い方を説明する。
・班の代表 1 名が火をつける。
・火がついて安定するまでチャレンジする。
・余裕があれば火のコントロールをする。（弱くしたり強くしたり）

2:00　**【5.片付け】**
◆火の後始末
・可能な限り薪は燃やし尽くす。
・残った灰は灰缶へ。
・道具は元の場所へ。
・残った熱に注意する。

2:20　**【6.まとめ】**
〈質問〉「やってみた感想は？」
・実際の生活と関連付けながら、火を扱うことについて考えてもらう。

2:30